



古代の玉作り集落

時代：古墳時代

調査名：十六面・薬王寺遺跡 第31次調査

発見年：2013年

^{じゅうろくせん やくおうじ}十六面・薬王寺遺跡では、平成24年度の第30次調査で古墳時代前期末の^{かっせき}滑石製玉製品を製作する集落跡などを確認し、さらに今回の調査でも玉作りをおこなった集落を検出しました。

古墳時代前期末頃の溝などから、滑石・^{へきぎよく}碧玉・グリーントフの^{はくへん}剥片が多数出土しました。特にグリーントフが多く、大きな素材剥片も出土しています。また、管玉の^{みせいひん すりきりといし}未成品や擦切砥石なども出土しており、玉の製作地であったことは間違いありません。

古墳時代中期～後期の溝からは、^{ほうせいきょう}小型仿製鏡・滑石製勾玉・滑石製の鏡形石製品が出土しました。^{さいし}祭祀に用いたと考えられます。

古墳時代前期の玉作り集落は、県内3例目であり注目されます。また、古墳時代中・後期の水路での祭祀に関わる遺物（鏡・勾玉など）が出土したことも重要な成果です。



十六面・薬王寺遺跡 第31次調査地全景



玉類出土遺構

